

シンポジウム 比叡山のモミ林を考える

2007年7月29日（日）
13:30～16:30（13:00 受付開始）

キャンパスプラザ京都
（参加費無料・事前申込み不要）

モミは日本固有の中間温帯を代表する針葉樹であり、自然性の高い森林の主要構成種となって森林景観をつくりだす。

しかし、有用樹種のために伐採が進んで、いまでは限られた場所にしかモミの天然林がみられない。

世界遺産の地・比叡山でもモミは山系の尾根部の森林景観を形づくっていた代表的な樹種である。戦後、用材確保のためにスギやヒノキの植林が盛んに行われたため、限られた面積にはなってしまったが、現在でも見事なモミの大径木が残っている。

これから日本の自然再生をおこなうためには、冷温帯林のブナやミズナラ、暖温帯林のシイ・カシ類とともに、欠くことのできない樹種であるモミの保全・再生へ向けて、モミあるいはモミ林の現状を知ることは、草本や昆虫、鳥類、哺乳類、菌類を含めたモミ林の生態系を息長く育成していく取り組みの第一歩であると考えられる。

このシンポジウムは、モミ林の学術的な意義とその現状を知り、今後の取り組みを考えようとするものである。

主催：特定非営利活動法人森林再生支援センター



本企画は「財団法人イオン環境財団」の助成を受けて開催するものです



プログラム

開会挨拶・講演者紹介 13:30～13:35

講演 「比叡山モミ林の学術的価値」 13:35～14:05

村田 源（むらた・げん）

森林再生支援センター理事長。1927年生まれ。京都師範学校卒業後、京都大学助手、講師を歴任し、京都大学を退官、現在に至る。青年期より、植物採集家として知られており、わが国を中心に世界中の植物標本採集とその整理分類に当たっている。植物の学名同定だけでなく、日本の植物相の由来や植物の立地環境についての研究も数多い。

「比叡山『大植樹祭』の経緯」 14:05～14:35

土屋和三（つちや・かずみ）

龍谷大学教授、里山学・地域共生学オープン・リサーチ・センター、森林再生支援センター専門委員。1948年生まれ。京都大学農学部農林生物学科卒業後、京都大学大学院理学研究科（植物生態学専攻）修了。龍谷大学文学部講師を経て、現在に至る。国土保全ネットワーク形成に関する調査委員会（京都府）委員等を歴任。研究分野は、植物生態地理学、タデ科植物の比較生態学。

「モミ林再生に向けて」 14:35～15:05

高田研一（たかだ・けんいち）

高田森林緑地研究所所長、森林再生支援センター常務理事。1950年生まれ。京都大学農学部林学科卒業後、京都大学大学院理学研究科博士課程単位取得退学。同志社大学講師等を経て、現在に至る。国土交通省自然環境アドバイザー、大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会委員等。森林と樹木に関する基礎生態学の研究を長年続け、その成果を緑化や造園、造林、治山などに活かしている。

パネルディスカッション 15:15～16:30

司 会 湯本貴和（総合地球環境学研究所教授、森林再生支援センター理事）
パネラー 講演者3名、誉田玄光師（比叡山延暦寺）

問合せ先

森林再生支援センター事務局
〒603-8145 京都市北区小山堀池町 28-5
TEL：075-211-4229・075-432-0026
FAX：075-432-0026
E-mail：info@crrn.net
http://www.crrn.net

会場案内図



キャンパスプラザ京都
第1講義室

京都市下京区西洞院通塩小路下る（JR京都駅ビル駐車場西側）

TEL（075）353-9111